

第3回 秋田市エイジフレンドリーシティ構想推進協議会 議事録

日 時：平成23年3月28日（月） 15時00分～17時15分

場 所：秋田市役所研修棟2階 第2研修室

委員の定数：9人

出席委員：9人

1. 開会

2. 秋田市福祉保健部長あいさつ

3. 委員紹介

4. 報告

(1) 前回推進協議会での意見交換の概要、議事内容について

委 員 | 今回の大地震で、防災計画を見なおす予定はあるか。また、海岸沿いに住んでいる高齢者や障がい者のための避難所は設けられているか、参考までに教えてほしい。

福祉保健部長 | 秋田市は幸い被害が少なかったが、現在の秋田市防災計画は大きな津波を想定していないため、今後練り直す必要は出てくるだろう。災害弱者に対するサポートや避難所については、秋田市災害時要援護者の避難支援プランで定め、個別計画を町内会単位で進めている。900近い町内会のうち、まだ3か所しか進んでいない。今回の震災時には、この3か所で安否確認が大変スムーズに行われ、個別計画が効果的であることが実証されたため、今後も各町内会に働きかけていく。

5. 議事

(1) 秋田市エイジフレンドリーシティ構想推進協議会中間報告(案)に対する市民100人会および市議会会派からの意見について

資料1、2をもとに、事務局から意見募集結果について説明を行った。

委 員 | 市民100人会は同じメンバーか。

事 務 局 | 同じメンバーで任期は2年、昨年メンバーが新しくなった。

委 員 | 資料1の問2の”住居”と問3の”バリアフリー化の推進”で「あまりわかりやすすくない」と回答した6人(21%)は同じか。

事務局	同一かどうかは確認していない。
都市整備部長	市民100人会の29人からの回答のうち、「わかりにくい」と回答した人数は6人で、人口からすると統計的に標準誤差が出る。わかりにくいという意見が多く出たところを修正する必要があるかどうかについて、この協議会で議論していただければありがたい。
会長	設問の「わかりやすい」「わかりにくい」は、「課題認識、重点課題の設定が適切かどうか」に代替で答えてもらっていると理解してよいか。
事務局	その通りである。
会長	<p>「わかりやすい」は「おおむね理解できる、共感できる」ということだが、「わかりにくい」については、「言葉が難しくてわかりにくい」「考え方がわかりにくい」の2点が考えられる。このデータでは明確ではないが、調査結果については、29人がこのように評価してくださったという数値として、参考としてほしい。</p> <p>次に資料1の意見部分だが、意見に対し市としての考え方が示されている。これについて、推進協議会として市民目線、市民感覚でのチェックが必要かと思われるので、気がついた点があれば発言してほしい。</p> <p>意見のNO.1「漠然としていて具体的ではない。」についてだが、まず課題認識が市民感覚にマッチしているのかが重要だ。次に、「これは行政がやるべきだ」あるいは「市民がやるべきだ」といった基本的な方向について確認していく必要がある。個別事業について「これをやってほしい、こうした事業が必要だ」といった点まで議論できれば一番だろうが、合意形成ができるかは疑問であるため、個別事業を提言書本体に入れ込むことは難しいと考えている。</p>
委員	自分の身の回りの高齢者や、今回の震災を考えると、高齢者の意識は様々で大変難しいと感じる。元気な人も、そうでない人もいて、エイジフレンドリーシティ構想の受け止め方も、いろいろと錯綜するのでないかという懸念がある。
委員	確かに、市民100人会からは「まずは若い世代と協力しあうことが大切である。」という意見がある一方、「高齢者があまり元気に働き続けると、若者の活気を削ぐので、譲った方がいい。」

という意見もある。元気な人と弱っている人では、認識が異なるだろう。

会長 他の委員から何か意見はないか。

委員 提言書の中に「高齢者は多様である。」という記述があれば良いのではないか。

委員 高齢者としたとき、どこに視点を置くのかによって大きく変わる。高齢者の能力や経験を生かすことに視点を置くのか、サービスを必要とする人に視点を置くのかによって違うと思う。

委員 とても元気だった人がある日突然介護が必要になるケースもある。両方を取り上げることが大前提だ。

委員 元気であってもやがて介護などを受ける時が来る人もいる。多様性を盛り込めばよい。介護が必要になっても安心できるまちづくりや、高齢者がいつまでも元気を保つにはどうしたらよいかを話し合い、進めることがエイジフレンドリーシティだ。

委員 しかしエイジフレンドリーシティについて話し合うとき、どちらかに方向を定めないと混乱するのではないか。

委員 元気な高齢者に活躍してもらうことと、支えが必要な高齢者へのサポートをしていくことの両方を包括するのがエイジフレンドリーシティで、大きなくくりの中でそれぞれの話が進められていくものだ。

委員 エイジフレンドリーシティの基本理念は、元気なときもそうでないときも、その人らしく生きていくことのできる社会づくりだ。介護が必要になっても最後までその人が人生を全うできるようなシステム作りを行っていくことが重要だ。

会長 行政はこれまで、高齢者は要援護者で、必要なサービスをきちんと提供しなければならないという、ステレオタイプ化した高齢者像を前提としていた。しかし今後は、サービスの提供だけでなく、全方位的考え方へと変わらなければならない。段階や8つのトピックによっても議論する内容が変わるだろう。では資料1、2について他に意見はないか。

委員	資料1の(2)意見のNO.10に「スーパーや商店等企業のバリアフリー化の取組について、評価機能や市民への紹介の場はあるのか」に、市の回答は県の取組を紹介している。この意見は「市でそうした取組や紹介があってもいいのではないか」という意味と受け取ったが、市はあくまでも県のものを参照してほしいという回答か。
事務局	「紹介しているものはなにかあるか」との質問だったため、県の取組等を紹介した。さらに情報が必要であれば、どこで担当するかは別として、ニーズを確認し提供していくことも必要と思われる。
都市整備部長	本市でのバリアフリー化への取組についての記述部分は、担当部局での確認が必要だ。県のバリアフリーマップの紹介は情報としてはあっているのではないか。
会長	県と同じものを市でつくればかえって市民は混乱するだろう。むしろ県のマップについて、市が連携し積極的に紹介していくことが必要と思われる。他に何か意見はないか。
委員	資料1の(2)のNO.1「具体性がない」という意見に対し「今後検討していくものとする。」との回答では、これからどのように議論が継続され、行政にどう反映されるのかという点について、説明不足と感じる。提言書の重点課題部分に今後のステップを示したり、推進協議会として総合計画へ盛り込んで実現をするよう強く要望するなどの明記が必要ではないか。
委員	市民としては、より具体的な事業を知りたい。今後具体的な事業はいつ頃出されることになるのか。
福祉保健部長	秋田市新総合計画では、「エイジフレンドリーシティの実現」を成長戦略のひとつとし、具体事業をスタートさせる。例えば、緊急災害時の対応に有効な要援護者台帳整備や、10月から始まる高齢者コインバス事業などで、できるものは来年度から随時スタートする。
委員	協議会では「こういう事業をやりたい。」ということを出していくべきか、それとも必要ないかを確認したい。
福祉保健部長	23年度から各事業をスタートすることができたのは、本推進

協議会における意見等を中間報告にまとめ、庁内連絡会に示し、積極的な事業展開を進めたからだ。本推進協議会の意見が反映され、新規事業が立ち上がった。

委員 協議会で「こういう事業をやりたい。」ということ挙げていかなければ、我々と全く関係ないところで事業が決められてしまうのではないか。

福祉保健部長 この協議会では具体的な事業よりも、一定の方向性を示していただきたい。トピックに沿った形でいろいろな議論をしていただき、それを吸い上げた形で事業化されることを理解していただきたい。

委員 そうであれば、やはり協議会で「こういう事業をやりたい。」ということを出していかなければならないということだろう。

福祉保健部長 「〇〇事業をやってほしい。」ということではなく、将来的にどのように進めて行くべきかという方向性を議論していただきたい。提言書をいただいた後で、じっくりと見直しを行うと言うことではなく、同時進行で進めて行くイメージで捉えてほしい。

委員 資料1の(2)のNO.1「具体性がない」という意見への回答としては、「今後具体的に検討していく」ではなく、「市総合計画の成長戦略のひとつとして、積極的に事業を進めていく」と変更したらどうか。

会長 推進協議会としては「我々が議論したことですぐ反映できることが更に踏み込んで進められることを期待する」ということになるだろう。

気になるのは、我々が議論し、よいことだとして実現されることを、行政が使えるところだけをつまみ食いしているという現象に受け止められかねないということだ。こうした議論のフォローの課題と思う。「今後検討する」などの結果がどのようになったのか、どのような議論がされたのかが見えないのは、市民と協働でエイジフレンドリーシティを推進するという考え方からすると旧態依然としたやり方と思う。もう一つは、既に広く市民が様々な活動をされているが、今後どのように取り込んでいくのかについても示す必要がある。そうしたものを最後に骨太でもよいから入れることによって筋道が見える。

委 員	新たにスタートする事業を、広報あきたで「エイジフレンドリーシティ推進のために、〇〇事業をやります。」と周知し、もっと市民に浸透させてほしい。推進協議会での議論をうけて、新たに事業がスタートする過程を視覚化し周知してほしい。
福 祉 保 健 部 長	おっしゃるとおりである。はじめはエイジフレンドリーシティという言葉が浸透しなかったが、この1年で徐々に浸透した。エイジフレンドリーシティの実現には、市民と一緒にやっていくことが必要であり、今後も周知・啓発にも力を入れていく。
事 務 局	23年度は、エイジフレンドリーシティ啓発事業を計上しており、9月の市民向けフォーラムの開催、職員研修会の実施、また市民向けパンフレットの作成配布を予定している。
会 長	議事（1）について、他に何か意見はないか。
委 員	なし。

5. 議事

（2）提言書(案) について

資料3、4をもとに、事務局から説明を行った。

会 長	提言書（案）の「はじめに」の部分について、意見はないか。
委 員	重点課題としてまとめた部分を、総合計画の中に盛り込んでほしい旨を書き加えてはどうか。
会 長	総合計画というのは、一般的に10年の基本構想と前期後期5年ずつの基本計画、更に1年ごとの予算措置を伴う実施計画の総称であると認識しているが、秋田市も同様か。
福 祉 保 健 部 長	おおむねそのような流れになっている。
会 長	総合計画の基本構想にこれから入れてもらうというのは、既に遅いと思うがどうか。
福 祉 保 健 部 長	総合計画の基本構想部分に、エイジフレンドリーシティの実現は既に入っている。そのため、提言書(案)に総合計画を盛り込むとすれば、「着実に進めていくことを期待する。」などの言い回し

になるかと思う。総合計画については、早い段階から公開しパブリックコメントなどを受けて3月に完成した。エイジフレンドリーシティの実現を成長戦略のひとつとすることは、早い段階から決まっていた。具体事業については、先ほども説明したように推進協議会の中間報告などを参考に、各部局において決められた。

会長 おそらく先ほどの意見には、総合的に総合計画に反映してほしいという点と、個別具体の事業について参考資料としてでもよいので盛り込んでほしいという2点があったように思う。それは、先ほどの提言書を出した後のフォローの話と関連する。

基本構想や計画に反映してほしい、施策に生かしてほしいということはあるが、計画に具体的にこうした事業をのせてほしいというのは、きちんとシステムがはっきりしないとただのお願い事項になってしまう。

次に本文P. 1の変更か所だが、数値データの置き換えであるため問題ないと思われる。

本文P. 2の文章変更だが、先ほど意見のあった「高齢者の多様性」について、どこに加えるかが関連する。P. 2を読むと、高齢者を逆説的に語っている。社会的弱者と、これまで高齢者を画一的に固定的に捉えてきたという語り口であるが、これを表から言う「高齢者は多様である」や「サービスを必要とする人もいれば、能力・経験など様々な可能性を持った高齢者もいる。」となる。「高齢者は多様性で潜在能力も経験もある。」とポジティブに表から語った方が良いのではないか。みなさんの意見はどうか。

委員 ポジティブな、意識改革も含めた表現にした方が良い。

会長 そうであれば、「エイジフレンドリーシティの基本理念」として別に記載された方が良いでしょうにも思う。他に意見はないか。

事務局 重点課題の記述部分に多様性について記述を加えるのはどうか。

委員 提言書の軸となるものなので、もっとはじめに明確にした方が良いでしょう。

会長 エイジフレンドリーシティ構想の理念について、行政側なり市長なり形式化されたものはあるか。現実的に時間的な問題もあるだろうから、解決策としては、構想理念について、P. 2の秋田市の現状の前に入れるか、「はじめに」の部分に加えるしかないように思うがどうか。

委 員	WHOの提言書の中に、参考となるものは何かないか。
事 務 局	WHOの提言書というものはない。
委 員	WHOが全世界に向けて提唱したプロジェクトを、なぜ秋田市が目指すのかが明確にされていないので、それを加えたらどうか。
会 長	「行政はこれしかやってこなかったからこれからはこうします。」ではなく、「高齢者は多様で様々な可能性を秘めているが、現状はこうである。」といった切り口であるべきである。高齢者のとらえ方の問題だ。高齢者の可能性や才能、知識の蓄積などをこれからは社会全体で共有しようとか、共生社会を形成していこうといった梗概な話が必要だ。「これもやっていなかった、これもやっていなかった、でも必要だからやります。」という話ではないように思う。
事 務 局	「はじめに」が「秋田市は、超高齢社会を見据えた対応として」と簡単に始まっているので、ここに高齢者の多様性や推進する方向性を入れ込むことは可能だと考えるがどうか。
会 長	「はじめに」の文章で高齢者の価値をきちんと語っていないと感じる。つまり、生まれたばかりの子どもは未来をつくっていくという価値で誰にでも認識できる。と同時に、高齢者には高齢者の価値がある。「高齢者に暮らしやすい都市をつくる」「高齢者に能力を発揮してもらおう」ことは、きちんと高齢者の価値を語った後に出てくる。今こうして私たちが豊かに暮らしていけるのは、高齢者のおかげだ。そうした高齢者の能力や経験は、これからも生かしていただくことができるというのがエイジフレンドリーシティの実現だろう。そのために基盤を整理すると言うことだ。
委 員	エイジフレンドリーシティで高齢者を元気な人を対象にするのか、サービスを必要とする人を対象にするのかで違う。
会 長	エイジフレンドリーシティ構想は対象を限定する狭い施策ではない。
委 員	P. 2の8行目に続けて、「秋田市の高齢化が進んでいることは事実である。しかし高齢者がお互いに支え合い、むしろエイジフレンドリーシティ構想の推進役としてその役割を担ってもらうことが重要となる。」と文章を加え、ポジティブなニュアンスを加

えたらどうか。議論がまとまらず、このままでは、はじめから提言書を作り直すという話にもなりかねない。

事務局 提言書では、「はじめに」の部分や「高齢者の現状」部分で、これまでの既存の高齢者像にとらわれず、高齢者が能力や経験をもとに活躍できる社会づくりの必要性については記述している。しかし、分散しているため1か所にまとめるよう、みなさんの意見を参考しながら修正を行うことにさせていただきたい。どの部分に加えるか、どのように修正するかについては、時間的な問題もあるため、会長にご相談しながら進めたいと思うがいかがか。

会長 事務局からの提案についてどうか。

委員 それでよい。

会長 では次に、資料4の「各委員からの具体的な提案について」の追加について確認する。”各委員からの具体的な提案である”という但し書きがつき、推進協議会としての提案ではないが、あまりにもかけ離れた提案があれば好ましくないため、確認をしていただきたい。意見はないか。

委員 ない。

会長 では、資料4の内容については、提言書の資料部分に追加することにする。今後の道筋について事務局から何かないか。

事務局 今後は啓発用パンフレットの作成に意見をいただくなど、推進協議会にお願いしたいと考えている。他に、提言書に基づき市の施策を定期的に報告していくような仕掛け（ホームページ）についても必要があると考えている。

会長 来年度の9月頃には新年度事業の予算検討がされると思う。推進協議会の意見を聞けと言うつもりはないが、こういう事業を考えているという時点で意見交換ができないか。市民の意見を吸い上げ、可能なものは反映させる仕組みが必要だ。先ほどから、各委員から出ている意見は、その仕掛けの必要性であり、知らない間に市で事業を進めていたというのでは、推進協議会の意味はないと思う。これについては、次回までに示していただきたい。

委員 どういったことを進めるのか、できるだけ情報提供してほしい。

福祉保健部長	随時説明してきたように思うが、説明不足の部分はあったかも知れない。今後も引き続き説明していく。
会長	<p>提言に関して、私の感覚としては第2期提言があってもよいと思っている。また、行政として取り組むべき事項について市が「こういうことをやりたい」と示し、推進協議会で意見を交わすということがあればよい。推進協議会は「あれをやれ、これをやれ。」という組織ではないと思っているが、応答関係ができればよいので考えてほしい。</p> <p>提言書(案)については、高齢者のとらえ方について、本日の議論を踏まえ、修正については事務局と会長の私に一任いただき、修正後にみなさんに確認いただくこととしたい。</p>
委員	異議なし。
会長	これで議事を終了する。

6. その他

本年度の日程は、本日の会議を持って終了となる。次年度の工程および内容については、23年度1回目の推進協議会において事務局案を提示する。